

## 常念岳~蝶が岳 山行報告

【山城】北アルプス南部

【コース】一の沢登山口→常念岳→蝶が岳→長堀尾根→上高地

【日程】平成30年4月27日(金)夜~4月30日(月)

【参加者】CL室 昌美 SL石橋きよみ 鶴田秀雄 安岡敏子 鈴木愛子 (記録)

【コースタイム】

○4月27日(金)

千葉駅北口 19:30⇒松本 23:10 ビジネスホテル (泊)

○4月28日(土)

ビジネスホテル 5:30 発⇒一の沢登山口駐車場 6:40 沢渡へ車を回送業者に依頼⇒一の沢登山口 7:30 発  
→大滝 8:45→常念小屋 12:40 着 (泊)

○4月29日(日)

常念小屋 6:20 発→常念岳 8:05 着 8:35 発→2592m P 12:00→蝶ヶ岳 13:43→蝶ヶ岳ヒュッテ 14:45 着(泊)

○4月30日(月)

蝶ヶ岳ヒュッテ 6:20 発→蝶ヶ岳山頂 6:23→長堀山→徳澤園 9:40 着 10:50 発→明神館 11:40→  
上高地 12:30→沢渡で車を回収→せせらぎの湯で入浴→帰葉

【記録】

○4月28日(土) 天気 晴れ

松本のビジネスホテルを 5:30 に出発し、一の沢登山口に向かう。途中の林道で猿の親子に会う。子猿がとても可愛い。6:40 頃、一の沢登山口の駐車場で車を 4月30日沢渡へ回送してくれる業者と落ち合う。業者の車とT車2台で一の沢登山口まで行き、T車を引き渡し、回送をお願いする。駐車場から登山口まで林道を歩かなくて済み、良かった。

7:20 登山開始。樹林帯の中を進む。3回小さな沢を飛び石伝いに渡渉したり、雪解け水がちよろちよろ流れている登山道を歩いたり、ずーっと沢の音を聞きながら沢に沿って登っていく。気持ちよく登って行く。1608mから登山道に時々雪が現れてきた。足跡に従い小枝や笹の小さな藪を手ではらい、雪渓に降りたら、常念岳、横通岳が見え、雪と常緑樹と岩とのコントラストが青い空に映え、とても美しい。その姿に感動し元気をもらう。そこが、1900mの地点で、笠原という所とMさんが教えてくれる。そこから先は夏道と分かれ、ずーっと雪渓を登りつめて常念乗越まで行く。



一の沢登山口にて 「さあ これから出発！」



一の沢の雪渓にて

雪渓から右側に雪が解け、夏道が見えた。雪の重みで階段状の手すり等が壊れてしまっていた。それ見たMさん曰く「あのような所をいつも何も感じないで歩いていただけ、ちゃんと直して整備してくれる人達に感謝だね」と。その言葉にみんなで共感する。

ずーっと雪渓を登り続け、傾斜が増してきて、2160m地点で4人はアイゼンを着けて登ったが、Iさんは「雪が緩んでいるから、キックステップで登って行けば大丈夫」とアイゼンを付けずに常念乗越まで登って行き、私達よりずいぶん早く常念乗越に着き、私達を見守ってくれていた。

常念乗越の手前の雪渓の急登がきつかった。乗越に着くと素晴らしい景色が待っていた。槍ヶ岳から北穂までの稜線、常念岳が大きくそびえている姿、常念小屋が見えた時は大感動であった。

常念小屋は屋根から下は雪で埋まっていて、入口はトンネルの中を歩いて行く感じであった。宿泊の手続きを済ませ、槍ヶ岳などが見える談話室で乾杯し、しばし山の話に花を咲かせ、楽しいひとときを過ごす。

泊まる部屋は個室で私達5人だけで、連休なのに一人布団1枚に寝られ良かった。明日の好天に期待し、21時には眠りに就いた。



槍ヶ岳と北穂高岳と常念小屋



常念小屋の入口

○4月29日(日) 天気 晴れ

常念小屋を6:20に出発し、常念岳頂上に向かう。常念岳は山の形がピラミダルでどっしりしていて格好がいい。登山道はほとんど雪がついていなくて夏道を登る。頂上近くの登山道に少し雪があった。登山道の左側の斜面に雪がついていた。

何年か前の5月上旬に常念岳に来た時は、雪がもっと沢山ついていて、雪が少ないのは地球温暖化の影響であろうか…?

きつい登りを頑張り、頂上着8:05。小さな祠があった。360度の眺め、槍穂高の稜線が素晴らしい。昨日、常念小屋からは穂高連峰は北穂高岳しか見えなかったが、頂上からは穂高の峰々全てが見えた。富士山もうっすらと見えた。南アルプス、乗鞍、御嶽山も見えた。眺めの素晴らしさに見とれ、30分も休憩をしてしまった。



常念岳頂上にて



常念岳乗越にて



常念乗越からの常念岳



常念岳からの槍穂高

蝶ヶ岳に向かって更に歩を進める。一つ目の鞍部を過ぎ、樹林帯を登り、2592m Pに向かう時に、アイゼンを付けて登った。2500m地点で休憩をしていた時、ヘリコプターが何度もその辺りをグルグル回っていた。私達はテスト飛行かな？それともテレビのニュース撮りかなと思ってしまい、みんなで手を振ってしまった。そこにいた私達以外の登山者も手を振っていた。ヘリの人達も私達の真上近くでホバリングし、私達は更に誤解をし、私達にサービスしてくれたなんて思ってしまった。後で私達のとった行為に対して、みんなで多めに反省した。

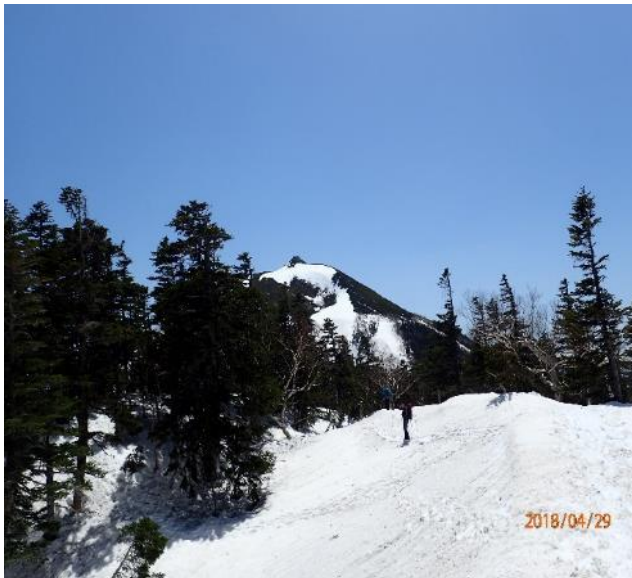
実はヘリは滑落し歩けなくなった人を救助する為にその人の居場所を探していたのであった。私達が手を振っている姿は、救助隊の人から見れば、救助要請した人の仲間なのか、見分けがつかない。救助隊のヘリに申し訳ない事をしてしまったとみんなで反省した。今後、どこかの山で今日の様な事に遭遇しても、県警のヘリには手をふらない様にしようと話合った。

2592m Pから降りた鞍部の手前で、他の登山者に次の様に告げられた。「今、救助隊の人がここに来て、2~3m滑落して動けなくなった人を、鞍部でヘリで救助するので、これ以上は進まないで、ここで待機してくださいと言われました」と。そこで15分間待機し、ヘリでつり上げられて救助するのを見

ていた。

その後歩き始めて間もなく、私はヒヤリハットを起こしてしまった。  
ヘリが救助した鞍部に向かう時、鞍部の手前で2～3m位の長さの急な斜面があった。斜面には階段状に靴の踏み後があった。私はしっかりアイゼンを踏み込めば大丈夫と思った。でも2～3m滑ってしまい、鞍部で止まった。アイゼンの裏に雪がだんご状になっていたのか…？  
今後、同じような所に遭遇したら十分気を付けようと思う。

更に歩を進める。蝶槍の直下で雪がなくなり、夏道となり、アイゼンをははずす。間もなく大きな岩場で、足の置き場を見つけにくく、滑りそうな通り越しにくい所が現れた。Iさんが、どこに右足を置いて、手はどの岩をつかんで登るか助言してくれ、みんな通り越せた。そして間もなく蝶槍の頂上着13:43。槍穂高が素晴らしい。穂高連峰が今までより、ぐっと近く大きく迫ってきて格好がいい。



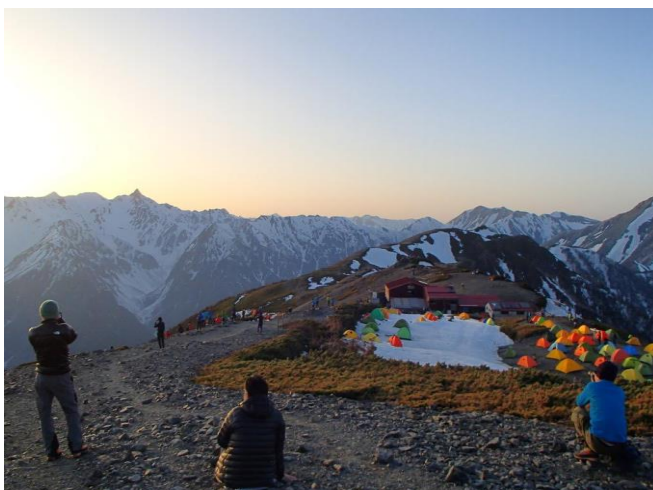
2592m Pからの蝶槍



蝶が岳山頂にて

更に歩を進め、横尾への分岐を過ぎ、なだらかな稜線を歩き、展望指示盤のある瞑想の丘に着く。そこが蝶ヶ岳の頂上かなと思ったら、そこは頂上ではない由であった。そこを過ぎると蝶ヶ岳ヒュッテであった。14:45着。(泊) 今日蝶ヶ岳には行かず、明日行くことにする。

ヒュッテのベランダで乾杯し、楽しいひとときを過ごす。夕食後、談話室は狭くて人がいっぱいだし、早々に布団に入り、20時頃には眠ろうとしたのだが、大部屋であちこちから大きないびきが聞こえ、なかなか眠れなかった。



蝶が岳ヒュッテと槍の夕日



蝶が岳ヒュッテからの穂高連峰



蝶ヶ岳ヒュッテからの槍穂高の夕日



徳澤園でのコーヒータイム

○4月30日(月) 天気 晴れ 少し風強し

朝 6:20 ヒュッテを出発。蝶ヶ岳の頂上 6:23 着。風が少し強いせい、今日の槍穂高は一段とはっきりと美しい。富士山も、昨日はぼんやりうっすらであったが、今日は、はっきりよく見えた。蝶ヶ岳の直下でアイゼンを着ける。雪が凍っていて、アイゼンがきいて気持ちが良い。ハイマツ帯を過ぎると樹林帯となり長い長堀尾根を下る。2000m地点でアイゼンを外す。

それから間もなくして、前を歩いていた大集団の一人の男性に声をかけられた。「ちば山の方ですか？」と。「拇海新道を歩いた時、拇海山荘で一緒だったパステルツアーの吉田です」と。「田中さんと楽しそうに盛り上がっていて、Tシャツを交換していた方ですか？」と聞いてみたら、その方だった。「田中さん、赤いTシャツ貰ってましたっけね」と言ったら「私も、今日、田中さんからもらったちば山のTシャツ、このリュックに入っているんですよ、着替え用として」と。「田中さん元気ですか？よろしくお伝えください」と。「元気ですよ。今、明神岳に入っているかな？連休後半だったかな？」なんて話をした。思わぬ所で声をかけられ、びっくりした。

長堀山を過ぎてから急傾斜の下り道となる。ひたすら樹林帯の中を下り、徳澤園に 9:40 着。そこで、アイゼンと靴とストックを梓川で洗う。洗い終えてから、Iさんが、コップとガスを持ってきてくれ、お湯をわかしてくれ、美味しいコーヒータイムとなり、楽しいひとときを過ごした。いつも徳澤園はトイレに寄るか、アイスクリームを食べて、すぐ帰るという山旅であったが、今日みたいにコーヒーをいただいてゆっくり過ごすという山旅もいいなと思う。Iさん有難うございました。

徳澤園を 10:50 に出発し、明神館を過ぎ上高地着 12:30 頃。タクシーで沢渡へ向かい、そこで車を回収し、せせらぎの湯で入浴し、帰路についた。



徳澤から明神へ向かう途中で、明神岳



山行が終わりホッ！！

#### ○今回の山行を終えて

常念岳～蝶ヶ岳～上高地の縦走コースは、それぞれの山一つづつなら登った事があるが、常念岳～蝶ヶ岳の間は初めて歩き（夏、秋も歩いた事がない）、上高地まで通して残雪期の縦走は初めてであった。残雪期の槍穂高の景色に大感動した。そして残雪期のそのコースを歩くことが出来た事がすごく嬉しい。ヒヤリハットを起こしてしまったり、二日目から膝が痛くなったりしたが、最後までどうにか皆さんと歩く事が出来たことは、ひとえに一緒に参加した皆さんのお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。